

【構想の名称】(タイプB-I)

「日米協働課題解決型プロジェクト科目」の導入と「日米教員協働プラットフォーム」構築

【プログラムの目的・養成する人材像】

グローバル社会でリーダーシップを執る上で必須の英語によるコミュニケーション力・交渉力、多様な価値観・意見を調整・統合するコーディネート力、事象の多角的分析力、そして、チームで仕事を遂行する上で必要な柔軟性を身に付けた人材を輩出する。また、協働教育を通じた米国大学教員との学術交流により、教員の国際的資質を高め、専門性を強化する。

【構想の概要】

「日米協働課題解決型プロジェクト科目」を導入し、日米間の学生交流を通して、学生が国際社会で活躍する上で必要な各種スキルの習得を促進する。また、「日米教員協働プラットフォーム」を構築し、プロジェクト科目を協働でデザインする日米の大学教員の協働研究の場として位置づけ、国際的な学術交流と研鑽の機会を増やす。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ 日米協働課題解決型プロジェクト(PBL)科目の連携構想

本学と米国大学とが協働で構築・開講するPBLでは、双方の大学から4~7名程度の学生がチームを構成し、それぞれ4週間程度の調査・研究を日米両方のフィールドで行う。調査・研究のテーマはPBLごとに異なるが、地域社会に根差した課題・問題群が複雑な相関関係にあることを学ぶため、複数のPBLを一つのフィールドで実施する方向での検討を始めた。それぞれのPBLの取り組み・成果を一堂に会して発表する場を設けることで、複数大学の学生が協働できる体制を整えていく。

〈PBLイメージ〉



○ 日米教員協働プラットフォーム(FCA)の活用

PBL科目実施に携わる教員を中心に、それぞれの大学で行われるPBLの事前検討から実施、授業評価に至るまでのプロセスを共有し、ワークショップや国際シンポジウムを通して研鑽していくことで、PBLひいては協働教育の効果を探っていく。年1回の開催予定であるFCAのワークショップやシンポジウムに加えて、恒常的に日米の教員が情報共有できるようムードルシステムを活用していく。

■ 今後の開始に向けた準備状況

〈オレゴン州立大学との協議〉



○ 米国協力大学とのPBL科目開講に関する協議

オレゴン州立大学、ディキンソン・カレッジ、サンフランシスコ州立大学、ユタ大学等とのPBL開講に向け協議を開始した。オレゴン州立大学およびサンフランシスコ州立大学とは、平成25年度のPBL実施を目指して調整を進めているほか、前述4大学との個々のPBLを、複合的な取り組みとするための調整に取り掛かった。

○ FCAワークショップ開催に向けた準備(6月25~27日開催予定)

米国協力大学のPBL担当教員を招へいし、本事業で取り組むPBLを複合的に実施するための各大学のテーマ設定、内容等について、本学の担当教員と協議するほか、日本でのフィールド調査対象地域となる秋田県由利本荘市側との意見交換、学生の受け入れ態勢の確認などを行う。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

本学で必須である1年間の交換留学と連携して行うプログラムであるため、PBL開講準備が整う平成24年度冬学期からの派遣が可能となる。平成24年度はオレゴン州立大学とサンフランシスコ州立大学へ計15名程度の本学学生を派遣予定であり、平成25年度からはPBL科目数の増加(4~5科目)に応じ、派遣学生数も増加する。

○ 外国人留学生の受入れ

平成24年度に本学から派遣するPBL履修学生が、米国留学先でPBLの前半4週間を受講したのち、一緒に受講した米国学生と来日し、本学でのPBL後半4週間を受講する。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	-	15	30	25	15
学生の受入	-	-	15	30	25

注)H23は実績、H24以降は計画。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

英語での授業、交換留学がカリキュラムの根幹にある本学では、通常業務の一環として日本人学生の派遣および留学生の受入れを行っている。専任教員によるアドバイザー制度、国際センターによる総合的な留学支援体制、単位認定制度の確立など、従来の留学サポートに加え、新たにPBL担当チームを設け、事前履修からフォローアップに至る一連の期間において、学習および生活面をサポートする体制を整えた。また、留学生受入れについても、従来の生活支援・教務支援に加え、PBL担当チームが日米両国でのPBL活動支援を行っていく。

■ 教育内容の可視化・成果の普及

日米のフィールドリサーチ終了後、PBLの成果をそれぞれの調査候補地での報告会で発表する。また、個々のPBLの成果を合同で発表する場も設け、他のPBLの成果も学習することで、学生に広い見識を身につけさせる。PBL実施に関わる教員を中心に構成するFCAでは、PBLの実施・評価など教授法に関する情報交換を積極的に行い、ワークショップ・シンポジウムなどを開催することで、その成果を周知する。PBLおよびFCAの取り組みは、ホームページで随時公表していく。